

第160回 仏教公開講座

年間テーマ

生きるって ということ

サブテーマ (教区テーマ)

まなこ
『眼をひらく』
こころ
『心をひらく』

真宗大谷派岐阜教区・岐阜別院

日 時	2017年10月20日(金) 午後6時半より		
講 師	駒澤 勝(こまざわ まさる)氏 (こまざわ小児科医院院長)		
講 題	阿弥陀様と私		
日 程	午後6時30分	開会・真宗宗歌・正信偈(同朋奉讃式)	
	6時45分	講 義	
	8時15分	質問の時間	
	8時30分	恩徳讃・閉会	
講師紹介	昭和17年 広島県三次市に生まれる 昭和43年 岡山大学医学部卒業 昭和44年 国立岡山病院小児科勤務 昭和48年~49年 科学技術庁長期在外研究員として、ニューヨーク 州立大学Upstate Medical Centerに留学 昭和55年 国立岡山病院小児科医長 平成 3年 こまざわ小児科開設 院長 現在に至る		
著 書	『病気の子どもも日本一』(山陽新聞出版局)、『健康であれば幸せか』 (法蔵館)、『目覚めれば弥陀の懐』(法蔵館)		

先生からのメッセージ

多数の患者さんが思い通りの結果に至らない現実の中で、死ぬ子や不治の病の子が「あるがままで良い世界」を求め始めた。それ以外彼らの立つ瀬がないからである。超難問だった。親鸞の教えにその答えを探した。難解の答えは意外な方向から来た。病気や死ぬ子ではなく、先ず私が、あるがままで良いと阿弥陀仏に支えられていた。それは私の存在の基盤であり、私の真の救いであった。そしてまったく同じ理屈で、病気や死ぬ子が、否、全ての人があるがままで救われていた。

MEMO

次回 第161回 仏教公開講座 ご案内

期 日 2017年11月20日(月) 午後6時半より
講 師 一楽 真(いちらく まこと)氏(大谷大学教授)
講 題 この世と浄土

講師紹介 1957(昭和32)年、石川県小松市生まれ。
1980年、大谷大学文学部真宗学科卒業。
1985年、大谷大学大学院博士後期課程満期退学(真宗学専攻)。
現在、大谷大学教授、真宗大谷派宗円寺住職。

著 書 『親鸞聖人に学ぶ―真宗入門―』(東本願寺)
『この世を生きる念仏の教え』(東本願寺)
『大無量寿経講義―尊者阿難、座より起ち―』(文栄堂)
『四十八願概説―法蔵菩薩の願いに聞く―』(文栄堂)
『シリーズ親鸞第5巻 親鸞の教化』(筑摩書房)
『蓮如 日本人のこころの言葉』(創元社)、など。

メッセージ お経の中で、西方の極楽世界として説かれる浄土。死後に生まれることを期待した人はたくさんいました。10円玉の図柄の平等院鳳凰堂は、藤原頼通が極楽に生まれていくことを願って建てられたものです。ところが、親鸞聖人は「浄土真宗」と呼びかけ、浄土が真の宗(よりどころ)であると述べられます。浄土を通して、この世の問題を見つめ、本当に生きることが成り立つのです。ご一緒に親鸞聖人の御心を尋ねたいと思います。